

平成29年度第1回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

1 日時

平成29年6月21日（水） 午前9時30分～

2 開催場所

中央コミュニティセンター8階 千鳥・海鷗

3 出席者

（委員）神野委員長、早川副委員長、椎原委員、関委員、河野委員、廣崎委員、伊藤委員、岩間委員
（事務局）安藤生活文化スポーツ部長、小名木文化振興課長、渡邊文化振興課長補佐、川口文化振興班主査、山口主任主事、島村主任主事、樺澤主事
千葉市文化振興財団 鈴木アーツステーション室長、斉藤アーツステーション主任主事

4 議題

- （1）第2次千葉市文化芸術振興計画年次報告書について
（平成28年度実施状況、平成29年度実施予定）
- （2）文化施策の評価方法について

5 その他

- （1）平成28年度芸術文化振興事業補助金交付事業の実施報告について
- （2）平成29年度芸術文化振興事業補助金採択事業の概要及び日程について

6 議事の概要

- （1）第2次千葉市文化芸術振興計画年次報告書について
（平成28年度実施状況、平成29年度実施予定）
千葉市文化芸術振興計画の平成29年度実施状況及び平成29年度の実施予定について報告し、意見交換を行った。
- （2）文化施策の評価方法について
文化施策の評価方法について意見交換を行った。
- （3）平成28年度芸術文化振興事業補助金交付事業の実施報告と平成29年度芸術文化振興事業補助金採択事業の概要及び日程について
平成28年度芸術文化振興事業補助金交付事業の実施報告と平成29年度芸術文化振興事業補助金採択事業の概要及び日程について報告し、意見交換を行った。

7 会議経過

<事務局説明①>

【神野委員長】

ただいま説明があった内容について、質問意見等がありますか。

【早川副委員長】

千葉県美術館の達成度がAとなっており、寄付金がもらえたので思ったより作品を購入することができたということですが、お金が増えたことに対してのAなのか、購入した作品が多くて良質だったからAなのか。何をもって達成度を決めるのか教えてください。

【小名木文化振興課長】

お金の面もありますが、良質な作品を購入できたということに対してです。

【神野委員長】

それに加えて、良質な作品を購入するための前提となる寄付の使い方の条件を整備できたことも踏まえていると思います。

【早川副委員長】

分かりました。

【椎原委員】

9ページ「美術品の収集」の事業費21万円は何を指すのか。

また、12ページ「美術館展示」はCになっているが、入場者数の目標が15万人に対し、実績が13万人で2万人位少なくてCというのが、結局、定量的評価なのかという印象を持ちました。

また、予算は1億円以上の予算になっているが、それは展示だけの予算なのか、美術館に支払っている指定管理料の総額なのか教えてください。

【小名木課長】

「美術品の収集」の21万は購入費ではなく、収集審査会開催事務的費用です。

12ページ「美術品展示」の事業費は指定管理料ですが人件費を除いた額です。

【椎原委員】

純粋に7つの展覧会を1億円で実施したということですか。

【小名木課長】

そうです。7つの展覧会の事業費です。

現状では、備考欄は定量的になっていますので、今後検証したいと思います。

【神野委員長】

美術館の活動を一年通してみると良質な展覧会を提供しているが、展覧会の内容によっては集客が見込めないものも当然ある。全体的な印象として美術館は頑張っているのに達成度がCというのはいかかなものかという感じがしてしまう。今後この部分については、数値目標の達成度と定性的な評価をどのように組み合わせていくか、課題として引き続き検討していきます。

【神野委員長】

特段破綻した事業計画はなく、13ページ「おススメ・カルチャー・プラットフォーム」に関しては実態にあわせて運営の仕方を柔軟に変えていき、実のあるものにするために当初の設定とは違う形になったので評価することが難しくなったという理解でよろしいですか。

【事務局】

そうです。

【早川副委員長】

購入した美術品は市の所有物で、美術館のものではないですね。

【渡邊文化振興課課長補佐】

市の所有物です。あとは寄託という形で預かっているものもありますが。

【神野委員長】

財団が指定管理していても、購入したものは市の財産ということですね。
それでは、議題2について事務局から説明願います。

<事務局説明②>

【神野委員長】

前回、委員の皆様からありました意見を基に評価指標や評価シートの修正をしてもらいました。

また、2つの事業について試行的に1次評価をしてもらっていますので、1次評価の内容の検討を踏まえて、2次評価シートを作成するための討議をすることが本日の目標になります。

確認ですが、評価シートに関する修正等で何か意見はありますか。

特になければ、1次評価シートについて説明願います。

<1次評価シート（メディア芸術振興事業）の説明>

【神野委員長】

内容について質問があれば、1つ1つの指標毎に、内容や評価の妥当性について検討する方向で進めていこうと思います。

この事業はメディア芸術振興事業として行われ、基本的には市民の裾野を広げる文化芸術イベントを開催することです。内容は体験を通じた学びのワークショップが行われていると理解できます。

まず、1「基本政策との適合」(3)波及を点数化しないのはなぜですか。

【川口主査】

(3)波及は、何施策波及したから4とか3とか考えるのが難しいため、段階評価を入れていません。

【神野委員長】

数値化するのが難しいし、評価のための基準設定を議論していないこともあるので、言葉での評価となります。

【廣崎委員】

これは誰が評価したんですか。

【神野委員長】

実行委員会の方がこの指標に沿って自己評価をしたものです。

【早川副委員長】

実行委員会とはどなたがやっているのか。

【川口主査】

実行委員会の構成は、千葉市文化振興課職員と千葉市にゆかりのあるクリエイター3名で構成されています。

【早川副委員長】

教師は入っていないんですね。

【川口主査】

入っていません。

【早川副委員長】

文科省の指導要領外のことをやるわけですね。

【川口主査】

そうです。

【早川副委員長】

これは、日本の現在の公立学校制度の中で一番欠けている点だと思うので、実行委員の中に教職免許のある人を入れたらいいと感じた。ななめの学校というのは、正式には文科省が認めないから「ななめ」ということだと思いますが、とても重要なことだと思います。

【川口主査】

ありがとうございます。

【神野委員長】

評価の理由に記載のある、西千葉工作教室の問題や学年にあった授業内容に関しての反省点が多く見られたが、教育的視点から見ると事前にチェックできること。教育活動としては、楽しかっただけではなく、その次が重要なので、実行委員会のメンバーに教育的視点から意見を言える存在がいた方がよいという早川副委員長の意見に共感する。

【椎原委員】

本日の議論で重要なのは、評価指標自体が適正であるかということだと考えると、内容は余り考えなくていいのではないかと思う。そういう視点からすると、かなり頑張って評価シートを書いているので、なかなかいい指標ができていないのではないかというのが私の感想です

【関委員】

アンケート結果の記載があるが、そもそもどのような内容のアンケートを取ったのかが示されないと、意見をしづらい。楽しかったという回答が多いように見えるが、楽しかったという項目以外にどのような項目があったのかなどは見えてこない。

【渡邊課長補佐】

集計結果を見れば、設問とそれに応じた選択肢が対応しているので分かるのですが、現物をお配りすべきだったと思います。

【岩間委員】

子供はアンケートでは本音は言いません。その点を意識しないと間違った評価になってしまうのではないかという気がします。

【神野委員長】

たしかに子供は誘導されて正解を書くことがあるので アンケートでも正解を求められていると思って書く危険性はあると思います。

関委員の意見に関してですが、楽しいことは授業を構成することの1つの要素であって 楽しくても何の学びもないこともあれば、辛くてもとても学べるものもあるので 楽しいということ自体は授業の

目標にならないということはよく言っています。ただし、排除していけない。楽しいことがあると、その授業に前向きに取り組んで参加しようと思うので良い効果はあるが、そこだけの評価するのは十分でないと思います。

この評価指標を基にこの事業主体が評価した内容は非常にいい形で表れているのではないかと思います。また、1つ1つの評価の妥当性を検証するというよりも全体の枠組みとしてこの評価が有効かどうかを見ればいいのかとの意見がありました。気になる所は質問していただいて当然だと思いますが、全体としてこういう評価を続けていくこと自体についてのご意見もいただけたらと思います。

【早川副委員長】

全体の評価として、とても良い事業だと思います。

3「事業のねらい」(1) 妥当性のところでさらにステップアップを図っていくとあるが、果たしてステップアップが必要かと疑問を持った。生徒が変わるのであれば、同じことでいいのではないと思うが、ステップアップとはどういうことか。評価としては4でも構わないのではないですか。

【神野委員長】

このこと自体が3になったということではないのでは。

ステップアップという表現が良くなかったのかもしれない。

今回は入口としてこのようなことをやることは早川副委員長がおっしゃっているようにとてもいいことで、これは同じような内容を続けるということ自体に意義があるという点をご指摘のとおりだと思います。ただ、今回経験した子ども達に対してもう一段階次の授業があるのかということ、そこは考えていなかったよねということになっていくということでしょうか。

【川口主査】

そうです。

【神野委員長】

以前にメディア芸術というものをどのように定義するのか議論した際に、狭い意味でのメディア芸術だとあまり発展性はないので、新しい芸術体験というか、芸術を広くななめからみて別の面白さを発見するという捉え方をしたほうがいい取り組みのような気がするという話をしました。その点で考えると、メディア芸術などの「など」のほうを伝えるように市のほうでもアピールしてもいいような気がします。

「西千葉工作室」は千葉大の学生や出身者が中心にやっている教室。授業内容が十分な内容にならなかったとのことだが、まだ十分な実績や経験のないところをお願いする場合は助言をしながら内容の精査していくことも必要になってくると思われるので、先ほど早川副委員長からお話のあった教育的観点から助言できるような人が事業に入っていることも重要だと思います。

【関委員】

実行委員会の委員は千葉市と千葉市にゆかりのあるクリエイターとあります。千葉市にゆかりのあるクリエイターを参加させる必要はないと思うし、こだわりもないが、どのようにゆかりがあるのかが全

く見えてこない。それなら書かなければいいのにと感じた。

【川口主査】

実行委員会の委員が千葉市にゆかりがある点については千葉市に実際に住んでいた、千葉市内に事務所がある、かつて千葉市内においてメディア芸術に関する事業をイベント実施したことがある方をまとめてゆかりがあると表現しています。

【神野委員長】

「ゆかり」という表現も意味のあるゆかりであれば積極的に使えばいいでしょうが、足かせになったり、事業の目的を達成するどころか足を引っ張りかねないのであればお願いしない方が良い場合もあると思います。中身を考えることが重要だと思います。

【岩間委員】

長年その世界にいましたが、メディア芸術というのは存在するのですか。
今ほどメディアのクリエイティブという論点が退廃している時代はないと思うが。

【神野委員長】

メディア芸術は国が政策として推進していて、「メディア芸術祭」という事業をやっています。その中に位置づけられているのは3Gを使ったアニメーションやプロジェクションマッピングのようなコンピューターやプロジェクターとか新しい技術を使った芸術表現を大きくくりにしてメディア芸術と言っています。

【岩間委員】

基本的には芸術とかクリエイティブというのは国が指導するものではなく、個々の一般の世界から湧き出てくるものだと思う。それを国とか自治体がどのようにサポートしていくのか、あくまでサポートであって育成とは違うのではないかという気がする。

【神野委員長】

今回の事業は評価すべきだと思う。子どもを対象に、子どもたちが関心を持って、自分が表現者になろうとする入口をつくる事業だと言える。例えば、子どもにクラシック音楽を聞かせてもあまりにも遠すぎてとそれをやってみようとはなかなかならない。それを「ななめな学校」というタイトルで参加しやすい枠組みを作って、身近なものから敷居を下げた次に何かやってみたいことという気持ちを活性化しようというところは良いと思う。実際にメディアアーティストになる必要はないと思います。現場に草の根的な表現が生まれて評価されて、より高いステップで公演がされたり、展示されたり、そういうものは残念ながら日本では育てていない。そのために、わざわざ観たいと思うような人を育てるという意味ではささやかではあるが大切な取り組みだと思います。

【河野委員】

今回の評価事業は2事業だが、本格施行となったら資料1にある事業を全部評価することになるのか。

【小名木課長】

2次評価まで実施するのは、1年に2事業ということで考えています。

1次評価については2事業のみとするのか、もしくは文化振興課所管の事業はすべて対象にするか、次回の会議で示したいと思っております。文化振興課所管の事業を全て対象にする場合は、非常に件数が多くなるため、評価シートを簡易的にすることも検討しています。

【神野委員長】

基本的には文化振興課の事業を中心にしっかりと精査して、毎年全てというのはマンパワー的にも難しいので、数年に一度受けるような形で評価を見られるようにしておけば、事業実施する人達が実施する時に何を留意すべきか確認できるので、それだけでも成果は大きいと感じます。

【河野委員】

所管毎に評価の考え方の基準を統一するのも事務局として大変かなと思い確認しました。

【神野委員長】

2次評価シートの提言の部分を委員の皆様の意見をもらって、後でまとめていかなければならないので、評価指標を順番に見ていきたいと思えます。

まず、1「基本施策との適合」は両方とも評価4で妥当ということでしょうか。

(委員一同了承)

【神野委員長】

2「戦略的な視点・基本姿勢との適合」はともに評価4で妥当ということでしょうか。

(委員一同了承)

【神野委員長】

3「事業のねらい」はともに評価3です。

これまでの委員の意見の中では、授業内容が教育的内容を含むので、教育的観点から指導助言ができるメンバーが実行委員会に入っていることが望ましい。また、教育的な取り組みがより大きな視点の中でどのように位置づけられているのかに関してもビジョンを持つべきという意見がありました。

全く上手くいっていないわけではないが、内容をより良いものにするためにどうしたらよいかを考えるとという意味で3は妥当ということでしょうか。

(委員一同了承)

【神野委員長】

4「市民との関わり」は、まず「満足度」は評価3です。今後につながる主体的姿勢をつくれたというところもあったが、内容が年齢に合っていないような内容もあったので対象年齢等の細かい内容の精

査を今後やっていく必要がある、これは先程の教育の専門家の話とつながる問題です。また、関委員からご意見のあった「楽しかった」という以外の指標も必要ではないかという点から3は妥当ということによろしいでしょうか。

(委員一同了承)

また、「周知度」は4です。参加者も参加希望者も多かったということで4は妥当ということによろしいでしょうか。

(委員一同了承)

5「効果」は、「地域活性化」は評価2です。

ここはあまり話題になりませんでした、地域活性化にふさわしい内容ではなかったと思います。

そもそも教育のワークショップで地域を活性化するのは難しい。活性化するのは人材が育った後で活性化されるのでこの評価は仕方がないような気がします。2の評価で妥当だと思いますが、事業の性質から考えるとやむを得ず、改善が必要となるような問題ではないと思います。

(委員一同了承)

【廣崎委員】

第1回目としては、とても良かったのではないかと思います。

【神野委員長】

今後、地域とのつながりをどのように作っていくのかは課題になりますが、美浜区以外で実施すると、1回やったところで繋がりでき始めたときに別の場所でまたゼロから始めるということになるので、もしかすると美浜区で何年間かやるということは重要な気がします。

【早川副委員長】

同意見です。

【神野委員長】

次に「費用対効果」は評価3です。

この費用対効果は子供たちの学年とふさわしくない、簡単すぎた内容があったりということが3になっている原因ですか。

【川口主査】

そうです。

【神野委員長】

全体の事業費はいくらですか。

【川口主査】

事業費は約200万円です。

【川口主査】

費用対効果の評価ですが、満足度としては、楽しかったし家でもやってみたい自分でもやってみたいという意見が多かったが、一部の方にはそう思ってもらえなかったことを考えると満足度は100%ではなかったので、評価3としました。

【神野委員長】

200万円は似たような事業をやっていて高いなと思います。
参加者は何人ですか。

【川口主査】

定員60人のところを増員して75人です。

【神野委員長】

参加費は無料ですよ。

【川口主査】

2千円です。

【神野委員長】

アーティストにできるだけ対価を支払うべきだと基本的には思っていて、本当はこれを私が高いと思わない社会を望んでいるが、千葉市がクリエイティブな人材にできるだけふさわしい対価を払いましょうという姿勢を貫くのであれば、これは肯定しますが、現状そうになってないので、この金額はどうなんだろうと思います。その辺りの予算は今後精査してもらいたい。

【川口主査】

今後、実行委員会で相場を踏まえて精査したいと思います。

【神野委員長】

費用対効果や広報につながるとは思いますが、チラシなどの広報は重要だと思います。行政は基本的にデザインなどにお金をかけない方向できたと思うので、今回のようにお金をかけるべきだと思います。千葉市でデザイナーの仕事に対価を支払うということが一般的になると、千葉市全体のデザインの質が上がってきて、自治体のイメージ向上にもつながるし、良いことはたくさんあると思う。謝金の話もそうだし、千葉市全体のクリエイティブ人材にお金が回るようなことを意識することが重要な気がする。予算の体系の中でポジティブな方向で考えていただきたい。

【早川副委員長】

費用対効果のところに小学校の4年生と6年生の力量の差に見合った授業展開が難しいという反省点

が書いてありますが、そもそも「ななめな学校」というのは年齢差とか学級差を越えた学校ではないんですか。学年が違って一緒にあって楽しめる学校というように私は理解しているので、ここで費用対効果の反省点として考えるべき内容ではないように思いますが。

【神野委員長】

それにふさわしい題材の提供ができなかった一方で参加者は参加費用をそれに対して使ってしまったという意味でしょうか。

【川口主査】

そうです。

【神野委員長】

本当はここに例えば70代の方がいて、子どもと一緒にやったら面白いわけです。それが芸術の面白いところじゃないかなと思います。

【伊藤委員】

謝礼のところですが、3組の方に謝礼が支払われていて、個人の方2人と団体ですよね。謝礼の額が違うということですか。

【川口主査】

本日は内訳が分かる資料がないため、すぐにお答えすることができません。

【伊藤委員】

実行委員の中に千葉市ゆかりの芸術家がいるけれど、講師は千葉市の方ではないということで、もしかすると実行委員の知り合いの方に講師を頼んでいるのではないかと考えられます。先ほど、相場より高額な謝礼が支払われているという話があったので、その辺りははっきりしたほうがいいのかと感じました。

また、ななめの学校というコンセプトは今後も続けていくということでしょうか。

【川口主査】

そうです。

【神野委員長】

謝礼が高いことが強調されてしまいましたが、本来は妥当であるべきだと考えます。千葉市として戦略的であるならば評価しますがそうではないことを考えると高いと感じました。それが知り合いにということになるといろいろと問題があるので、説明できるようにしておいたほうが良いと思います。実は社会的にもクリエイティブな仕事に関わっている人たちが文化的最低限の生活ができないような状況があります。そのような中で行政は大きなセクターなのでその辺も視野に入れて妥当な金額を予算は全体

の中で考えていただきたいと思います。

【廣崎委員】

千葉市文化振興財団が事務局となっていますが、講師は財団に講師登録しているなど関係者ではないんですか。

【川口主査】

それは違います。今後は、地域に根差したアーティストを活用するため、文化振興財団のアーティストバンクに登録しているアーティストに講師をお願いたいと考えています。

【神野委員長】

最後に提言ですが、事業内容が教育的な内容であるため、教育的視点でアドバイスできる人を実行委員会の委員に入れた方がいいということ、全体としてこの事業をどこに位置づけていくのか、この事業がどこに繋がっていくのかを計画の中で考えてほしいということ、講師の選定や謝金について多角的な視点から妥当であるということを経後の課題としていただきたいと思います。

今後の方向性としては、A「継続」が妥当だと考えます。

一つ目の事業評価はこれで終了します。

続いて、「スタートアップチャレンジ事業」について説明をお願いします。

<1次評価シート（メディア芸術振興事業）の説明>

【神野委員長】

スターアップチャレンジ事業は財団が行う事業で、基本施策3文化芸術を「支える」(2)活動しやすい環境の整備を大きなねらいとして実施された事業です。

事業を公募し、市民参加型という条件のもと内容を審査した上で採用事業を決めて、会場面のサポートと運営費の一部を負担するという内容です。

まず、1「基本施策との適合」について、意見や質問等がありましたらお願いします。

【神野委員長】

達成度について、募集团体2に対して応募件数3というのは、多い数字とは思えないです。そこは全体を通じて気になりましたがどうですか。

【関委員】

ななめな学校のチラシはきちんとしたものがありませんでしたが この企画は仮チラシみたいものでやっているんですか。

【鈴木室長】

企画者の募集の為にチラシは財団で作成しており 実施主体がそれぞれの事業のチラシを作成しています。

【神野委員長】

チラシのイメージで応募しようとする人達が選別されてしまうと思います。いつもと違うメッセージを発していると何か財団新しいことを始めたのかなと思って、手を挙げたくなるもの。これは波及効果や広報の評価にも関係する。

デザイン的な部分での助言をするアドバイザー的な立場の人がいて質を上げていくことも重要ですね。

【関委員】

企画募集でアーティストを募集するものと、観客を募集するものの2種類のチラシを作るのに、同じテイストのデザインを作っても全然変わらないと思う。そこをどのように工夫していくことが大事だと思う。

【神野委員長】

周知度とも関係しますが、今後の提言として、広報のためにはデザイン的な側面が重要なので、何を狙いとするのかということは考えていくべきだと思います。事業主体がそれを引き受けることが難しければ、そこへの援助ということが重要になってきます。

【早川副委員長】

チャレンジ企画募集とありますが、具体的にアーティストとはどういう人を想定しているのか。バイオリニストとかですか。

【鈴木室長】

音楽だけにはこだわっていません。

【早川副委員長】

例えば、舞踊教室をやっている人を対象にしているのか、そこで舞踊を習っている人を対象にしているのか、どちらですか。

【鈴木室長】

どちらでもありますが、スタートアップチャレンジということなので、初めての方に実際にやっていただくということが主旨ではあります。

【早川副委員長】

中学生以下を対象にした企画とありますが、そういう人を集めて発表することができる人ではないといけないんですよね。

【鈴木室長】

そうです。

【早川副委員長】

こういう人を集めて、応募して問題なければ、次に実施する人がポスターを作り宣伝するという仕組みですか。

【鈴木室長】

そうです。

【早川副委員長】

大変難しい事業ですね。

【廣崎委員】

アーティストバンク登録者が対象になるのかと思いましたが。

【鈴木室長】

対象にはなりますが、限定はしていません。

【廣崎委員】

チラシの配布先を見ると一般の人の目に付かないかなと感じますが。

【鈴木室長】

一般的に人の目に付くところということで公共施設等に配布しましたが、今後の課題とします。

【関委員】

4「市民との関わり」を考えた時に、同じ人に来てもらうのと、新しい人に来てもらうのとではどちらがよいのか。私は、裾野を広げていくということであれば、新しい人に来てもらう方がよいかなと思います。

【神野委員長】

スタートアップチャレンジは1回しか応募できないんですか。

【鈴木室長】

そこは限定していません。新しい企画に対しての支援という考え方です。

【神野委員長】

「新しいこと」の判断が難しいと思う。少し変えただけで新しいと言ってしまうこともあり得る。

今回の一番の目的は、新しい事業を挑戦するとき会場が借りやすいとか、予算面でサポートを受けられるということで、スタートアップしやすい仕組みを作ろうということだったと思います。

1「基本施策との適合」(3)波及の中で考えると、この事業は参加型というのがとても大きな要素になっているので、そのことをどう評価するということが入っていないとおかしいような気がする。内容的に全く評価できないということではないが、三味線とジャクリングは異業種のコラボレーションですが、そこに創造的なねらいがあるのか、クラシックのそらおとに関しては普通に実施されていないかという感じがして、新しい参加型の挑戦とは見られなかった。そう考えると、波及の評価が4になっているということに関して、参加型の評価が高いということは検討すべきではないかと思いました。ここは、3に見直すべきだと思います。

2「戦略的視点・基本姿勢との適合」に関しては、(3)領域の広がりというところで評価が4になっていますが、三味線とジャクリングを組み合わせたということ自体は目新しい感じがするが、それが本当に領域に広がりを作っているのかが気になります。ジャクリングを好む人と三味線を好む人が一緒にやることによってどう理解が深まったのかということが検証されていないと、ただ意外なものを組み合わせればよいということになってしまう。

【廣崎委員】

文化振興財団の事業で言うと、そらおとコンサートがワンコインコンサートと違う点として、0歳から3歳までを対象とすることがある。未就学者がクラシック音楽を聴く機会は少ないので良い事業だと思うが、どちらも参加者が少ないのがもったいない。今後の課題だと思います。

【神野委員長】

未就学児を対象とすると、これまでのクラシックのアプローチとは全然違うことが求められると思う。それがこの資料から伺えなかったのが気になることです。可能性はあると思います。

その他の評価を見て、これは高すぎるとか、低すぎるとかあればお願いします。

【関委員】

地域活性化が4となっていますが、なかなか大変なことだと思います。

【神野委員長】

この事業はホールを活用することを前提しているので、地域活性化することはなかなか難しい。地域活性化を目指すことであれば、例えばそれぞれの表現者や演奏者が自分の地域で実施する事業に関してサポートするというやり方もあるが、ホールを前提とすると達成は難しい。

事務局に質問ですが、1次評価シートの評価の数字を一つ一つ訂正する必要はありますか。

【川口主査】

点数は2次評価シート作成のための議論の目安となるもので、点数を出していただかなくてもよい。

【廣崎委員】

事業費として市から22万6千円出ていて、決算額が13万5千円ということは、チラシにもう少しお金をかけることができるということですか。

【鈴木室長】

はい、できます。

【早川副委員長】

この事業のイメージですが、三味線とジャグリングなどアーティスト同士の結束や交流をするのか、歌や演奏とかそれぞれのところでやっている人が結集してやるのかどちらのイメージですか。

【鈴木室長】

基本的には企画を出していただいたい方が自らの中で考えた企画を実現するというものです。

【早川副委員長】

企画として出されたものは何でもいいという考えですか。

【鈴木室長】

自由企画ですので、それぞれが考えられたものでよいという考えです。

【伊藤委員】

確認ですが、この2事業はアーティストバンクの方が採用されたのですか。

【鈴木室長】

違います。3件応募があった中でアーティストバンクの方が1件、その他の方1件採用となりました。アーティストバンクでない方はその後登録いただきました。

【伊藤委員】

昨年度9月に募集をして実際の実施が3月ということで年度の後半になってしまうのはどうしようもないのでしょうか。

【鈴木室長】

日程は施設の空き状況も見ながら、企画者との打ち合わせ等で一番良い日を決めました。

【伊藤委員】

今年度はいつ頃募集するんですか。

【鈴木室長】

今年度は7月1日から8月31日までの2か月間で実施します。

【神野委員長】

なるべく早く募集して、ベストな時期に実施するのが望ましいことだと思います。

満足度の評価は4ということで、アンケートに基づいているということですが、岩間委員のご指摘に繋がりますが、何に対して良かったと思っているのかが重要だと思います。アンケート用紙も付いていますが、自由記述が多いので難しいところですね。

【関委員】

この満足度はアーティスト側ということですね。

【鈴木室長】

そうです。

【神野委員長】

市民との関わりをアーティストが満足しているということですね。

【鈴木室長】

そうです。

【関委員】

これはすごく難しい。どっちが主体なのかが見えにくいので評価しにくいところはある。

【神野委員長】

来場者の人達の満足はここには反映されてないということですか。

【鈴木室長】

ここでは載せていません。企画者に対しての満足度と考えています。

【神野委員長】

何かすっきりしないですね。

関委員のおっしゃるとおり、基本的にはこの事業には2段階ある。実演者がハードルを低くしてもらうことによって公演とかプログラムを実演できるという点と市民参加型企画であると条件が付けられているという点。市民参加型の場合、市民の満足度も問わないと、参加型のほうは適当にやって満足度は低いのに、実演者は演奏できて満足ですとなってしまうこともあり得る。

文化振興課としては、この事業の場合、「市民との関わり」はどのように考えていますか。今の財団の評価でよろしいということでしょうか。

【川口主査】

市民との関わりの満足度は、観客側や出演者側などを意識して作っているわけではなく、市民が演者側にいると同時に観客でもあるということも考えられますので、両方の視点から満足度を探っていくと良かったと思います。

【神野委員長】

この部分に対しては実演家で企画を立案して実施する人達の満足度も評価の対象であるが、公演事業を聞きに来た参加者の満足度も評価の中に入れていただきたいということですね。

【早川副委員長】

ねらいがどこにあるのか分かりにくいですね。

【関委員】

実演家とお客さんの垣根をなくしたいのか、実演家が企画を出すことなのか、文化センターを知ってもらいたいのか、その辺が分かりづらい感じがあります。

【神野委員長】

実演家が事業を立案しやすいという事業としての評価に終始していますが、これは参加型と謳っているのでもそこを見ないと、演奏会ができるための名目さえ作ってしまえばこの事業は良かったということになってしまう。事業が立体的に作られている以上は、両方の目的をきちんと見ていくことが重要になる。特殊な内容なので、その点は留意しないといけない。

また、参加型ということも、財団の強いメッセージだと思うので、その部分が計れないということになってしまうと、ジャクリングと三味線はどうだったのかが問われないまま、演奏ができたから良かったですという感想だけで終わってしまう可能性もある。

ねらいが欲張りすぎているというのがありますが、踏み込んで語らないと、チラシもそうですが分かりにくい。何が期待されているのかが分かりにくいとしっかり評価することもできない。両方とも求めるということをしっかりと謳って、両方とも評価するということが必要だと思います。

その点では 1つの側面だけを見て評価しているということになってしまっているのでも、事業の内容を鑑みてもう一度何を評価するのかを考えていただきたい。

今回気づいたのは、こういう性質ものだと、満足度に関してはメインの指標だけでは評価できるものではないということが分かりました。

評価に関して一つ一つ見ていくなれば、1「基本政策との適合」は、一方の目的はねらいとしては分かるが、周知の点で3件しかなかったことは残念な状況である。また、実演者中心の議論や狙いで書かれているけれど、事業内容が参加型にすることによって裾野を広げるということもあるので、その部分に関しても評価をしないときちんと評価したことにはならない。

2「戦略的な視点・基本施策との適合」は、子供対象にしたということは評価できるが、領域の広がりについては、何が実現されるのかが曖昧である。具体的には三味線とジャクリングがどのような未来につながっていくのかが見えにくい。

3「事業のねらい」は、曖昧であると指摘があり、そこを明瞭化してほしいという意見がありました。

4「市民との関わり」は2つのねらいがある。市民とは誰なのかということ踏まえた上での視点を持って評価してほしい。

5「効果」は、この事業がどこまで効果があったのか見えにくい。実演家の人たちが3件応募してくれ、そのうち2つが実演されましたということが裾野を広げるという点で効果があったと言えるのかについて十分な検証がなされていないという印象を持ちました。また、地域活性化の視点にしても同様に、地域とは何なのかということが見えなかった。これが評価の指標に入ってくることは分かっているので事業をこういう方向でやってほしいということが見えなかった。

今後の方向性は、A・B・Cですがどうでしょうか。大枠として良いと思いますが、少し残念だと思います。

【関委員】

私も大枠は良いと思います。

【神野委員長】

もったいないので、改善してもっと良くしてほしいということで、B「改善」が妥当だと思います。

今後の方向性は、ねらいを明確にして事業の絞り込みができればいい。絞り込むためにはより多くの応募がなければ成立しないので、広報等の特にデザイン面での課題というものについて財団も含めて今後どのような形でデザイン的な側面を強化していくのか考えてほしい。それによって、事業のねらいも伝わるし、そもそもねらいが明確でなければデザインできないので。それによって新しいアプローチ出てくるのがこの事業で1番重要なことになってくると思います。

【伊藤委員】

7月から募集が始まるということは、チラシはもうできているのか。

【鈴木室長】

現在作成中です。

【神野委員長】

そういうところにもお金をかけたり、外からの助言を受けられることも今後重要になっていくと思うので、文化振興課も含めて考えていただきたいと思います。

以上で 議事は終了でよろしいでしょうか。

【事務局】

ありがとうございました。

それでは、報告事項が2点程あります。

<資料4の説明>

<連絡事項④の説明>

委員による事業視察は必要かという論点もありましたが、時間の関係で次回ご議論いただきたいと思
います。

事務局からは以上です。

【渡邊課長補佐】

次回の第2回会議は12月頃を予定しています。